

交換留学帰国報告書

記入 | 2025 年 5 月
所属 & 学年 | 経済学部経営学科 4 年
卒業予定 | 2026 年 3 月

留学先大学	シンガポールマネジメント大学
留学先国	シンガポール
留学期間	約 9 ヶ月 (4 年次に留学)
留学開始 - 終了	2024 年 8 月 10 日 - 2025 年 5 月 9 日

A. 留学に至った経緯や留学準備について

①留学する大学や国、プログラムを決めた理由を教えてください。

自分が経済学部にも所属しているという点で経済的に発展している国に留学したいという思い、そして、いろいろな人種の人が集まっている国に留学に行きたいという思いからシンガポールに決めた。また、ヨーロッパの国々やオーストラリア、アメリカなど日本からの留学先としてよくある国ではなく、珍しさのある国に行ってみたいという理由もあった。SMU(シンガポールマネジメント大学)を選んだ理由としては、SMU がグループワーク中心の授業形態をとっていて、強制的に英語を話さないと授業に参加出来ないような環境があり、より実りのある留学体験ができると考えたことがある。また、SMU-X という授業では本物のクライアント相手に授業をすることが出来るので、教科書を読んだり、授業を聴講したりするだけではなく、学んだことを実社会に応用できる機会が整備されているという点で魅力的だと感じたことが SMU を選んだ理由。

②留学を志したきっかけや経緯、動機などについて教えてください。

大学に入学する前から英語が話せることに憧れがあって交換留学をしたいとは考えていた。名古屋大学の海外留学支援室にそのことを相談して、長期の前に短期で留学することをおすすめされてアメリカに 1 ヶ月ほど留学した。その時に留学によって自分の物事の見方や問題への対処の幅が広がると感じたことが大きな留学を志すきっかけとなった。英語が理解出来るといういろいろな日本語に限定されないリソースから知識を吸収でき、また、多様なバックグラウンドを持つ人達から自分とは異なる考え方を知ることができることを短期留学によって体験し、単なる英語話者への憧れという志望動機に自分の視野を広げるといった大きな動機が追加された。

③留学前の海外渡航経験があれば教えてください。

渡航先	渡航時の学年	目的 & 期間など
アメリカ・ボストン	高校 2 年生	1 週間の短期研修プログラム
アメリカ・ノースカロライナ	大学 3 年生	1 ヶ月間ノースカロライナ大学で英語や異文化、キャリア形成など様々な内容を学んだ

④実際に留学準備を始めたのは応募した時期からどのぐらい前でしたか？

大学 2 年生の冬に海外留学室に初めて相談に行き、長期の交換留学に必要な条件等を教えてもらって準備を始めた。そこから大学 3 年生の冬までは必要条件取得のために力を入れ

て英語の資格試験の勉強をして、短期留学も経験しつつ、志望動機を固めていった。まとめると、出発の1年半前くらいから準備を始めた。

⑤海外留学室での相談内容、参考になったことなどを教えてください。

長期留学に行くためにまずは短期留学で自分の志望動機を固めること、また自分の英語力がある程度把握しておくことというアドバイスは非常に参考になった。単に英語を話せるようになるという志望動機ではなく、留学で何をしたいかを考えるきっかけを作れたことは「なぜ語学留学ではなく交換留学なのか」に対するアンサーを用意でき、実際に交換留学をしている間もその志望動機に沿って行動することでとても実りのある交換留学にできたと思っている。また、短期で留学して自分の英語力がある程度把握したことで、どの程度英語を出発前に力を入れて勉強するべきかを知ることが出来た。

B. 留学前の語学対策や単位などについて

①留学前の語学対策、TOEFLなどの受験回数などについて教えてください。

IELTSを大学3年生の夏の短期留学前に1回、帰国してから出願締め切りの冬までに2回の計3回受けた。出願までは単語帳、IELTSの対策本、英語のYouTube、ポッドキャストを読んだり、聞いたりした。出願後は今までやっていたことに加えてよりスピーキングに力を入れるためにオンラインで1日30分の英会話を毎日やっていた。また、名大の英語開講の授業を履修した。

②単位取得、単位互換、教職履修などに関してのアドバイスをお願いします。

SMUは単位取得に関してはそこまで難しくない。ただ、生徒間の競争がとても激しいので高い成績を修めようと思うなら、テストの勉強はもちろん、授業内のグループディスカッションや発表を積極的にやっていかないと難しい。

C. 授業や勉強について

①留学先で履修した科目と科目コード（例：MKG 2022 Introduction to Marketing）、時間数、形態、授業の内容、履修方法、などについて教えてください。

授業は全て週1回3時間、90分経つと10分程度の休憩がある。
全てが教授と生徒のインタラクティブな授業形式で、ほぼ毎授業でグループディスカッションの時間がある。最終プレゼンもどの授業でも求められ、授業によっては中間プレゼンがあることもある。グループディスカッションでもそれ以外でも積極的に発言していくことが求められるので頑張らないといけない。最初の頃は本当に大変だとは思いますが、失敗を恐れずに一生懸命伝えよう、参加しようとするれば、グループメイトも教授も自分の意見をくみ取ろうとしてくれるので、英語の流暢さよりも参加しようとする姿勢がとにかく大事。

MGMT102 Strategy

経営分析、戦略立案の基本的概念をさるう授業。内容自体はポーターの5Force分析など名大でも学ぶものが多かったが、毎授業で学んだ概念を基に実際の企業や業界をグループで分析して、発表する時間があった。成績は毎授業の発言、中間として20ページほどの資料を読んで答える宿題、最終プレゼン、最終テストを基につけられた。内容は既に学習済みだったが、実際の企業についてグループで意見交換をするのはとても新鮮だったので、基礎授業といえども学ぶことはとても多かった。

MGMT330 The Design of Business

SMU-X といわれる本物のクライアントと共同で進める授業である。SMU-X は現地の子いわく、通常の授業 2 個分の負荷があり、授業内でも外でも大変だったが、その分学ぶことはとても多い。自分は今回 Audi と共同で授業を行なった。特にこの授業は卒業学年向けの SMU-X で、今まで学んできた内容を基に課題に取り組む授業であったため、スライド作成、プレゼンなど求められる水準が非常に高く、非常に苦労した。しかし、授業内でも外でも必死ですべきことをやっているうちにグループメンバーの子達も自分を認めてくれるようになり、いろいろな面でサポートしてくれた。授業後も一緒にご飯にいくほど仲良くなった。成績は毎授業の発言、授業内テスト、中間プレゼン、最終プレゼン、宿題形式のファイナルテストを基につけられた。

MKTG207 Marketing Strategy

マーケティングについての基礎概念を学ぶ授業。名大でも学ぶ内容に加えて SNS を使った広告など最先端のマーケティング概念についても学んだ。ゲストスピーカーとして実際の社会人と話す機会も設けられていた。自分の所属していたグループ内で割り当てられた仕事をしなかったことについてもめ事が発生し、とても大変だった。幸い自分は自分のタスクをしっかりこなしていたので責められることはなかったが、仕事をしないようになってしまうという現実を目の当たりにしたある意味貴重な経験だった。成績は毎授業の発言、最終プレゼン、ファイナルテストを基につけられた。

MKTG204 Service Marketing

マーケティングの中でも特にサービス分野に特化した概念を学んだ(有形なものよりも無形なものに焦点を置いたマーケティングの授業)。この授業も SMU-X で、この授業ではシンガポールのホスピタリティ業界の Frasers Hospitality と授業を共同で行なった。週 1 でメンターも巻き込んだグループミーティングがあり、授業で学んだことを基に企業の課題に授業外で取り組む形式だった。成績は中間プレゼン、ファイナルプレゼン、宿題形式のファイナルテストでつけられた。

COMM255 User Experience (UX) & Digital Product Design

UI/UX についての授業。自分にとっては全く馴染みのない分野だったが、過去に SMU に留学した先輩が激推ししていたのでとった。授業内容は Web デザインについて基礎概念を学びつつ、グループで問題のある実際の Web サイトを選んで Figma というコード不要のデザインアプリを使って Web サイトを改善するというものだった。学習したことはな分野だったが、実生活に密接に関係した授業内容で非常に面白かった。教授も非常にフランクで生徒のことをとても考えてくれている優しい教授だった。特に教授も英語が第二言語だということもあって、英語を話すことの難しさをとても理解してくれている。恐れずに話せば、丁寧に聞いてくれるし、アンサーを返してくれる。オンデマンドで事前にビデオを見る場合はオンデマンド 1.5 時間、授業 1.5 時間、そうでないときは授業 3 時間といった授業形式。成績は毎授業の発言、小テストが 2 回、中間レポート、最終プレゼンを基につけられ、数回追加得点のための非強制的課題も出た。授業内容、教授の人柄どちらをとっても良い授業だった。自分もこの授業はおすすめ。Tamas 教授。

②授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫を教えてください。

主に 2 点。1 つめは授業の予習、復習を徹底すること。馴染みのない英語での授業なので、授業中に分からない単語や用語があっても、調べている間に置いて行かれてしまうことが起こりえる。そのため、事前に授業資料には目を通して置いて、分からない単語や用語は調べてメモしておく、目の前の授業に集中出来るので良かったと感じている。復習につ

いても同様で、授業は前回の内容からつながっていることがあるので、前回の授業で学んだことはある程度、理解を深めておくと、次の授業がスムーズに理解出来ると感じた。2 つめは積極的な発言。なかなか英語で発言するのは難しいと思うし、実際自分も 1 ターン目はあまり発言できなかったが、2 ターン目からは徐々に慣れたこともあり、授業内で発言をするように心掛けた。授業全体での発言は難しいかもしれないが、グループワークでは絶対に発言すること！どんなに稚拙な英語でも発言しないと「やる気のないやつ」という目で他のグループメンバーから見られてしまうので、グループワークでの発言はマスト！日本みたいにうなずいて、アサインされた仕事をやっているだけでは通用しない世界。

③学習面で困ったことはありましたか。どのように解決しましたか。

プレゼン資料作成や実際にプレゼンをするときにシンガポールの学生の求める基準が非常に高く苦労した。シンガポールは小さい頃から政府主導で教育に力を入れており、日本の大学生にとってはプレゼンが馴染みないという 2 つの理由で大変だった。郷に入っては郷に従うということわざ通り、形式ややり方においては現地生のやり方に従って、分からないところは積極的に現地生に聞いて解決した。よっぽど性格が悪い子でなければ親切に教えてくれる(基本シンガポールの子は日本が好きな子多いので、日本人へのあたりは優しい)。

また、プレゼン資料作成やプレゼン以外の調べものやアイデア出しは自分達にも出来る範囲なので、他の子達よりもその部分は多めに貢献するように心掛けて行動した。

D. 大学生活について教えてください。

①現地の雰囲気や大学の校風について教えてください。

SMU はシティエリアの中心にある大学なので非常に都会感のある雰囲気だった。近くに店もたくさんあるのでとても賑やか。大学内や大学に行くまでにたくさんの観光客とすれ違った。シンガポールの成績重視の性質上、生徒はみんな真面目でとても勉強している印象。(シンガポールの他大学の学生曰く、SMU の学生はヘビのような狡猾な印象らしい…。みんな優しい良い人ばかりだが、腹の底では成績で常に競い合っている印象だそう。実際その傾向があるのは否めないかも…)

それでも、勉強だけではなくて、大学のイベントや地元の企業が PR のために大学内で開催するイベントなどにはみんな積極的に参加している印象。勉強が大変な分、イベントやサークルで発散しているのだろう。

②ネット環境、施設、周辺環境などハード面について教えてください。

ネット環境に関してはまず問題ない。学内のどこからでもインターネットに接続できる。施設に関しては学内には図書館をはじめとして多くの自習スペースがある。家で集中出来ない人は是非活用することをおすすめする。また、コネクションという新しい建物の下にフードコートのような場所があったり、タピオカの店があったりと食事に関してもある程度充実している。(Kofu というフードコートは現地生曰く、高いのにクオリティが低いと不評なようだった)D①で書いたようにシティエリアの中心にあるので少し歩けばモールやホーカーがある。大学まわりの散策も非常に楽しい。大学外の店もいろいろ開拓していくと面白い！

③留学先でどのようにして現地の学生と交流を深めましたか。

自分はストリートダンスのサークルに日本で所属していたので、日本にいる内からある程度 SMU のサークル(現地では CCA)を調べて目星をつけていた。CCA に入るためにはオーディションと面接があったが、なんとか通過し B13 の代で CCA に加入した。そのおかげで同期や先輩と交流する機会が多くあった。基本的に月曜と木曜に CCA の練習があったの

で、そこで交流を深めた。CCA から情報をもらって外部のダンスバトルにも参加していたため、他大学の現地学生とも交流を深めることが出来た。また、バディプログラムに参加し、SMU の学生にバディになってもらって、3 ヶ月に 1 回程度会って、シンガポールを案内してもらった。SMU から案内がくるので是非参加することをおすすめする。

自分は幸いにも授業のグループメンバーと仲良くなったので一緒にターム終わりにご飯を食べに行くこともあった。ただ、これに関しては、授業内の関係と割り切っている学生もいるので授業外でも仲良くなれるかは少し運要素がある。だから、SMU が企画してくれているプログラムや CCA に参加することを 1 番推奨する。

④余暇の過ごし方（授業後や長期休暇など）について教えてください。

ターム中は CCA の活動やダンスイベントに参加したり、ジムで体を鍛えたり、YouTube や Netflix を見たりして過ごしていた。自分のキャパシティと要相談だが、最初の頃は日本のコンテンツを見て息抜きの時間としていたが、自分の英語力不足を痛感し、3 ヶ月後くらいからは全てのコンテンツを英語のコンテンツで見るように自分はした。休憩時間は自分のしたいことをする（日本のコンテンツを見たい）という人の考え方ももちろん分かるが、まわりの環境を英語で埋めることは非常に自分自身効果があったと感じているので無理しない範囲でまねしてほしい。

長期休暇は CCA の活動やダンスイベントに参加したり、他の日本人留学生や海外の留学生と旅行に行ったりした。特にイタリア人とフィンランド人の留学生友達とタイに 5 泊 6 日で旅行したのは良い思い出だった。

E. 健康管理、保険、予防接種など

①健康管理あるいは衛生面について注意していたことはありますか。

野菜とフルーツをとりづらい環境なので、自分は基本的に毎朝バナナをとるようにしていた。日本でも同じだが、食事、睡眠、適度な運動は大事なのでしっかりとるようにした。

②留学中に病院へ通った経験の有無、医療費などについて教えて下さい。

花粉かアレルギーか分からないが鼻水が止まらないことがあったので計 2 回耳鼻科へ行った。保険が適用される病院を調べて行ったので保険適用によって医療費は無料だった。この 2 回以外は特に病気もけがもなかったので病院へは行かなかった。

③留学するにあたって、予防接種は必要でしたか。

☐ はい（種類：）

☒ いいえ

F. 住居、食事、マナーなどについて

①留学中の滞在先について教えてください。

形態	☐ 寮 ☒ 下宿 ☐ アパート ☐ ホームステイ ☐ その他（ ）
何人部屋	（ 1 ）人

②生活（住居、食生活、服装など）や習慣の違い（マナー、対人関係）、安全面などについて、困ったこと、気をつけていたことがあれば教えてください。

SMU は交換留学生向けの寮がないので、自分で探さなくてははいけない。自分はリトルインディアの近くの大学から推薦されていた住居に下宿していた。立地は良く、大学まで 2 駅、約 20 分で着く。住居付近は大きなショッピングモールがあって買い物や食事も困ること

は特になかった。一人一人自分の部屋が用意されているが、キッチンや冷蔵庫、洗濯機、ユニットバスは共同。自分の部屋は大きなベッドと机とクローゼット、棚だけでほぼその他のスペースはない。虫が大量に発生した。ゴキブリは2回ほど見ただけだったが、蜘蛛、蟻、小さい虫が大量にいて、ほぼ共存状態だった。家賃は月約15万円(2025年現在)。まとめると、立地は申し分ないが家賃の割に部屋の広さや環境があまり良くなかった。住めないことはないがあまりおすすめはしない。The Assembly Place という会社が斡旋している 18 Roberts Lane。

食生活について

以前に SMU へ留学していた日本人が SMU まわりの安くて美味しい店をまとめてくれているので基本的に食事で困ることはない(リスト欲しかったらあげます)。SMU 内のフードコート、SMU まわりの店、家の近くのショッピングモール内の店で食事は完結していて、朝にシリアルをバナナと食べる以外は外で食べていた。日本食は高いが、その他の食事は日本と値段はさほど変わらない。

上記の E 欄で書いたように生野菜、フルーツはとる機会があまりないのでスーパーで買うなどしてとるようにすると良い。

服装について

年中蒸し暑いので T シャツで大丈夫、ズボンも半ズボンで問題ない。

ただ、室内は冷房ガンガンに効いているので羽織れるものがあると良い。

習慣の違いについて

自分の住居が一部共用だったのでとても習慣の違いは感じた。基本的に日本人は綺麗好きな人が多いので習慣の違いを強く感じると思う。共用スペースでは使ったものは片付けないし、キッチンも使い終わった後は汚かった。トイレを利用して流さない人もいた。ただ、習慣の違いは仕方ないと思うし、自分の価値観や習慣を押し付けるのは良くないと思うので、自分がどうしても我慢できないことは直接言うとしても、ある程度の許容は必要だと感じた。

安全面について

日本と同じくらい安全。夜でも外を出歩くことが可能。安心して外出出来る。

- ③日本から持参するとよいもの、または持参しなくてもよかったと思うものは何でしょうか。

シンガポールにドンキホーテがあるので、基本的に日本のものは買うことが出来る。物価が日本より若干高いのでスペースに余裕があるなら持って行くと良いが、現地調達可能。強いて言うなら、羽織れるものとスコールが度々あるので、折りたたみ傘を持って行くと良い。

- ④参考となる留学先国の情報（出版物、web サイト）を教えてください。

NiSC というシンガポールの日本人留学生(正規生・交換留学生)支援団体があるので、参加すると良い。交流イベントや企業訪問等のイベントを開催している。

G. 留学費用について

- ①留学費用や支出の管理などに関してアドバイスがあれば教えてください。

日本の大学での勉強をとにかく頑張って、GPA 高くして、奨学金を獲得出来るよう頑張りましょう。シンガポールは家賃面で高かったが、奨学金のおかげでなんとか乗り切れた。

②奨学金は受給していましたか。

☒はい (奨学金名: JASSO,名古屋大学海外留学奨励制度 支給額: 132 万 円)
☐いいえ

③差し支えない範囲で留学費用を教えてください。*内容の費目は自由に変えてください。

内容	金額	備考
渡航費	約 25 万円	内 20 万円は名古屋大学海外留学奨励制度より免除
保険代	約 8 万円	留学中に 2 回病院に行ったが、いずれも保険適用で診察代、薬代免除
食費	約 60 万円	
住居費	約 150 万円	内 15 万円はディポジットで返ってきた
その他	約 60 万円	生活必需品、お菓子、飲み物、ダンスイベント参加代、旅行代諸々
合計	約 303 万円	内約 110 万円は JASSO 奨学金により免除

H.今後の進路や目標、就職活動について

①卒業後の進路（進学、就職、その他）について教えてください。

☐進学
☒就職
☐その他 ()

②今後の進路や目標があれば教えてください。また留学の前後で、進路や目標に対しての考え方や気持ちの変化があれば教えてください。

留学前よりも格段に英語についての自信と興味を持つことができるようになった。将来は海外の企業やクライアントと関わる企業や部署で働きたいと考えている。一方で、住環境については日本の良さが身に染みて感じた。日本で暮らしながら、海外企業と関わったら 1 番ベストだと思っている。

③留学中に就職活動を行った方は、具体的なエントリー、一時帰国の時期、感想などを教えてください。海外留学生用の就職活動を受けた場合はそれに関する情報もお願いします。

自己分析、業界分析をしながら、総合商社にエントリーを行った。企業側も留学生のことを理解しているので基本的には最終選考まではオンラインでやってくれる企業ばかり。就活支援団体もたくさんあり、留学生向けの団体もあるので積極的に利用すると良い。ちなみに、シンガポールはテストセンターがたくさんあり、基本的に自分の受けたいときに受けることが出来る(日本と違って混雑していない)のでおすすめ。

I.留学を終えて感じること

①留学を終えて今の率直な気持ちや感想、印象に残っていることなど教えてください。

まずは親を始め、相談にのってくださった海外留学室や過去に SMU に留学していた先輩、奨学金支援団体など関わってくださった全ての人に感謝したい。自分一人ではなく、いろいろな人の協力があってこそ交換留学できたと感じている。
勉強面では、シンガポールの学生のレベルの高さに驚いた。プレゼン資料の作成やプレゼンなどのレベルが非常に高い！
最後にシンガポールの人達、特に関わりのあった学生達は非常に友好的だった。いつかシンガポールに戻って再び友達に会いたい！

②留学したことで、何がどのように変わったと思いますか。

英語についての考え方が変わった。もちろんコミュニケーションスキルとしての英語という留学前の考え方も間違っていないが、英語が分かるからこそ、ディスカッションや資料を通していろいろな知識を得ることが出来ると感じた。英語が分かる日本語に限定されていた知識のリソースが格段に跳ね上がり、自分にとっての世界の見方や物事の見え方がより豊かになっていくと思った。「英語話せることがかっこいい」から「英語理解出来ると自分の視座が格段に広がる」と英語を学ぶ意味が自分の中で変化し、より一層英語を学び続けたいと感じるようになった。

③現在、留学を考えている学生へのメッセージをお願いします。

英語の勉強は日本に居てもできる。留学に行くことの意義は、自分と異なるバックグラウンドを持つ人達の考え方や習慣を実体験することができ、自分の考え方、ならびに自分の可能性が広がることだと自分は思う。あくまで、これも私の考えで、どう感じるか、考えるかは留学に行った本人にしか分からない！だから迷っている人は是非前向きに検討して自分自身で馴染みのない環境を体感して欲しい！留学行くのを決めている人は、とにかく出国前にスピーキング、リスニングは重点置いて練習しよう！

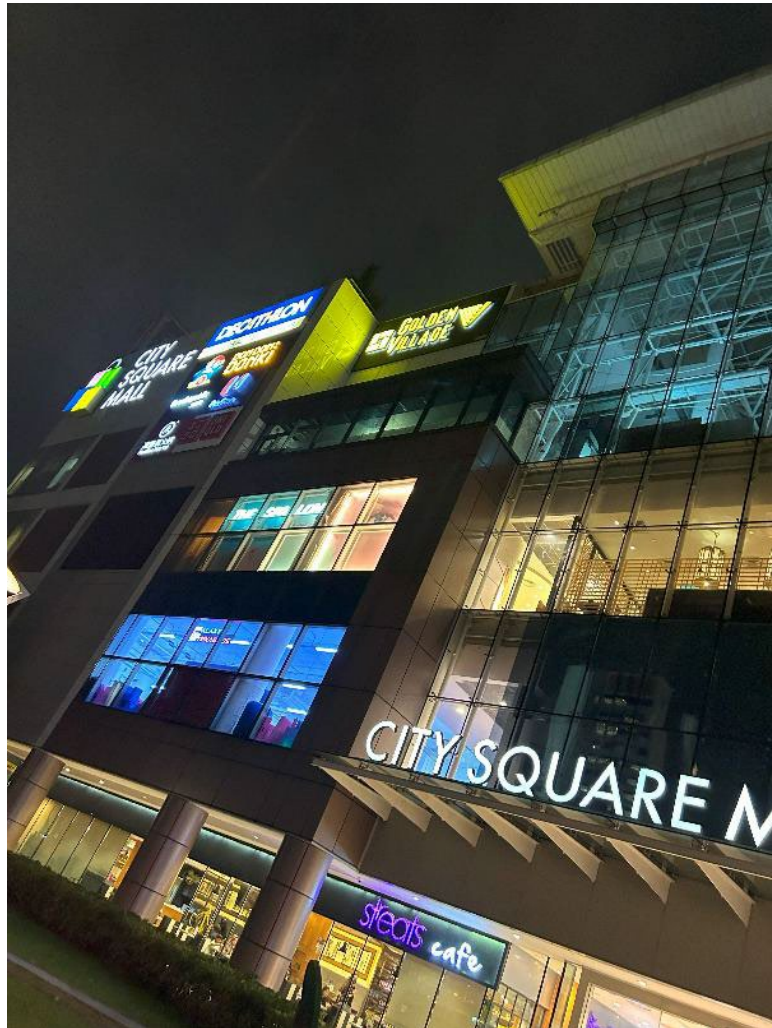
◆自由記述欄◆

渡航先の大学や留学の様子がわかる写真（メール添付でも可）を下記へ、ぜひ共有してください。報告書は Web サイトや印刷物として公開するため、被写体の人物へ使用についてあらかじめ承諾を得てください。添付された写真は、すべて被写体の人物から公開承諾を得たと判断し、海外留学室の Web サイトや印刷物へ使用します。

↓↓↓



シティエリアの中心にある SMU



自分の家の近くのショッピングモール、ドンキやユニクロが入っていた



交換留学友達(イタリア、フィンランド、スペイン、カナダ、リトアニア)



友達と一緒にタイに旅行に行ったときの様子



SMU-X の授業で一緒になった友達



CCA の友達(B13)の代



空港にお見送りに来てくれた CCA のメンバー